

リポーターだより No. 4

住みよい環境をつくろう

リポーター

伊藤 泰順さん

(日景町一区)



左から伊藤リポーター、教育委員会生涯学習課 柴田係長、松田係長

青少年の健全育成に日ごろご尽力されている方々にとって、神戸市須磨区で発生した、小学生連続殺傷事件は十四歳の少年の犯行とわかり、誠に心が痛む思いであつたはずで、また、この事件が世間を驚かせ、揺るがしたのは間違いない事実でありました。

近年、非行犯罪は、児童、青少年の低齢化とともに凶悪化の一途をたどっている傾向にあります。

『小中学生の不登校が 十万人を越す』

新聞によると、全国で年間三十日以上学校を休んだ割合は、小学生で三百七十八人に一人、中学生では五十三人に一人になるそうです。その背景には、いじめや学業不振などの問題のほかに、家庭でもそれほど不登校にこだわらなくなってきたということもあるそうです。

混迷の時代であっても、二十一世紀に向かって、青少年健全育成の行く末を案じてばかりはいただけません。相次ぐ児童、青少年の事例事犯についても、目を覆うばかりであります。急増する強盗、性非行ばかりか、親の愛情を一身に受けて育った子供がいじめによって自ら命を絶つことほど悲しいこ

とはありません。家庭教育、学校、地域の連携を密にして、改めて家庭において力強い自立心を培うこととの大切さを、どんなささいなことであっても親子で話し合うことが解決への道であることを認識すべきでしょう。

今回リポートするにあたり、大館市教育委員会生涯学習課の柴田係長、松田係長に多忙にもかかわらず、貴重な資料を公開していただき、様々な質問を伺うことができました。

問 大館市の青少年健全育成に関係する機関を教えてください。

答 大館警察署、家庭裁判所、市民相談室、少年相談センターなどがあります。なかでも、少年相談センターは大館市、比内町、田代町を対象にしており、平成九年度の電話相談が五十三件、来室による相談が二十三件、合計で七十六件の相談がありました。また、補導員として五十人が活動しており、一年間で延べ五百人、百十三回の巡回を行いました。

問 学校へはどんな取り組みを行っていますか。

答 十月中旬に心の教育相談室を設け、市内全部の中学校に相談専用の電話を設置します。また、各